

沖縄キリスト教短期大学FD委員会
(編・著)

2012年度 後期

学生による授業評価報告書

巻頭言

はじめに

第1章 全体的評価

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

付 録 満足度調査報告

沖縄キリスト教短期大学

沖縄キリスト教短期大学

2012 年度 後期授業評価

沖縄キリスト教短期大学

学長 中原 俊明

2012 年度後期の授業評価が実施され、その結果を集約した報告書が手元に届けられた。本来の任務の傍ら、貴重な時間とエネルギーを費やして、その作業に従事された FD 委員会のメンバーの方々に改めて感謝したい。

高校まで受動的で内向きの教育に終始しがちな現状を反省しつつ、大学教育における学生たちの主体的、能動的な学びの必要性を説く声が聞こえて久しい（例えば、政府サイドからも、2012 年 3 月 26 日付け中教審大学教育部会の報告書で、「学生の思考力、表現力を引き出し、能動的な授業を中心とした教育が必要」と述べている）。本学院でも引き続きそれを教育の課題としていきたい。

今回の調査項目は「I. 学習態度の自己評価」と「II. 学習環境の評価」に大別され、さらに「III. 改善のための提言」の順に構成されている。概観した感想として、I では授業の内容、受講態度、成果などにほぼ 8 割前後がポジティブな自己評価をしている反面、予習復習、フィードバック等で 7 割台となっていて若干課題を残している印象を受ける。II では、授業の内容、方法に関して好反応を示し、更に「学んだ達成感」に関する評価の平均値が 5 段階中 4.53 と高いのは注目される。これらの結果を踏まえ、2016 年度に予定される短期大学の認証評価に向け、さらに気を引き締めて備えたい。

沖縄キリスト教短期大学FD委員会委員（2012年度）

中原俊明（委員長・学長）
大山伸子（委員・短期大学部長）
柳田正豪（委員・英語科長）
喜舎場勤子（委員・保育科長）
張本文昭（委員・総合教育系主任）
金城繁正（委員・企画推進課長代行）

執筆者

作田真由子（英語科）
吉村壮明（保育科）
張本文昭（総合教育系）

以上

はじめに

はじめに

本学では2011～2012年度にかけて、各学科・系会議、FD委員会および教授会において、従来の授業評価アンケートの意義や方法、質問項目内容について再考した。その結果、「自立した学習者による自己評価であること」に主眼を捉え直し、特に質問項目については「Ⅰ 学習態度の自己評価」、「Ⅱ 学習環境の評価」および「Ⅲ 改善のための提言」の3点を観点としてアンケート内容を再編成した。2012年度後期の授業評価アンケートは、新しくなった授業評価アンケートの2回目の実施となっている。

2012年度後期の授業評価アンケートを、2013年1月（当該学期末に近い時期）に実施し、85科目、172クラスについて分析を行った。分析に投与された評価表は、3434件であった。評価は5段階法を採用しており、1点を最低、5点を最高の評価としている（質問項目9は2段階法）。

第 1 章

全体の評価

本章では、「Ⅰ 学習態度の自己評価」および「Ⅱ 学習環境の評価」についての全体的な傾向を示す。

1 各設問に対する結果

以下に、「Ⅰ 学習態度の自己評価」に関する結果に対して若干の解説、解釈を述べる。各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。

Q1 「初回のオリエンテーションを聞き、授業の概要や目的、成績評価の方法などについて正しく理解していた」

評価の平均は 4.54 であり、「5」評価が 63.8%、「4」評価を加えると 90.6%であったことから、授業目的や概要の説明、授業ガイダンス等は概ね理解されていたものと考えられる。この数値は前期の評価 (M=4.51, 「5」+「4」=84.8%) よりも高い結果となっている。

Q2 「私語や携帯電話の使用など、授業を乱す行為をしなかった」

評価の平均は 4.46 であり、「5」評価が 60.1%、「4」評価を加えると 87.4%であったことから、概ね受講マナーは守られていたものと思われる。また前記の評価と大きな差は認められなかった。

Q3 「この授業をきっかけに、発展的な学習や新しい知識に興味を沸いた」

評価の平均は 4.44 であり、「5」評価が 59.3%、「4」評価を加えると 87.1%であり、前期と共通する結果となった。比較的多くの学生にとって、授業が新たな学びへの動機付けとなっていたことと考えられる。

Q4 「この授業に、積極的に参加した」

評価の平均は 4.40 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 84.4%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。一方で、「3」「2」「1」を合計すると 15.2%に達し、一定数の学生が積極的には授業に参加していないと感じている。

Q5 「授業時間以外にも、授業の準備や課題を行うなど、計画的に学習に取り組んだ」

評価の平均は 4.24 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 78.4%であったことから、これまでの設問 1~4 よりは低い評価となっている。本設問に対する結果は後述の Q7 とも共通する傾向が認められた。また、この傾向は前期の結果とも共通している。

Q6 「この授業を通して、地域および国際社会の事情に、より関心を持つようになった」

評価の平均は 4.23 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 78.5%であった。先の Q5 と同様に設問 1~4 よりは低い評価となっている。前期よりも若干の数値の上昇が認められるが、この点に関しては、授業内容や授業特性によって、地域や国際社会の

諸問題を扱いにくいケースもあり、第2章の科目毎の評価でより詳しく参照されたい。

Q7 「この授業の予習・復習または準備・フィードバックを自主的に行った」

評価の平均は 4.07 であり、「5」評価が 42.5%、「4」評価を加えると 72.1%であった。この数値は五段階評定を用いた設問に対する回答の中では最低であり、それは前期と共通する結果となったが、若干の数値上昇も認められる。過去に用いていた授業評価アンケートにおいても「予習や復習」に関する評価は最低であったが、今回は「準備やフィードバック」を質問文に加えたため、学生の自主的な学習についてこれまでよりも拾い上げることが出来たのではないかと考えられた。

Q8 「この授業での遅刻はなかった」

評価の平均は 4.42 となり、また「5」と「4」の評価を合わせると 83.0%であった。多数の学生は遅刻することなく出席しているものと捉えて良いと思われる。しかしながら標準偏差が 1.03 あり、個人差があるとも考えられる。

Q9 「この授業での欠席回数を把握している」

評価の平均は 0.97 であり、「はい」と回答した者が 45.4%、「いいえ」と回答した者は 24.3%であった。前期の「はい」が 67.7%、「いいえ」は 21.2%であり、後期の未回答者が 30.3%にもなることから、欠席回数の認識が前期から後期にかけて低下したものである。

以上が「Ⅰ 学習態度の自己評価」に関する項目である。続いて「Ⅱ 学習環境の評価」に関して結果を述べる。

Q10 「授業中、分からないことや理解できなかったことを質問する機会や工夫があった」

評価の平均は 4.48 であり、「5」評価が 63.3%、「4」評価は 23.7%であった。「5」と「4」の評価を合わせると 87.0%であり、概ねそのような機会や工夫は為されていたと捉えて良いであろう。

Q11 「授業の開始・終了時間は適切であった」

評価の平均は 4.61 であり、「5」評価が 70.7%、「4」評価は 20.9%であった。「5」と「4」の評価を合わせると 91.6%であり、前期と共通する結果となっている。時間はほぼ適切に守られていたものと推察できる。

Q12 「授業の進め方にメリハリ（声の大小・説明内容等）があった」

評価の平均は 4.55 であり「5」評価が 69.0%、「4」の評価は 19.6%であった。概ね良好な結果と捉えて良いだろう。

Q13 「理解や興味を引き出すよう工夫されていた」

評価の平均は 4.50 であり「5」評価が 65.2%、「4」の評価は 21.9%であった。前期の結果より標準偏差値が小さくなり、個人間や授業間の差が多少解消されたのではないかと推察できる。

Q14 「教員としての相応しくない発言や態度はなかった」

評価の平均は 4.62 であり「5」評価が 72.6%、「4」の評価は 18.0%、それぞれの評価を合わせると 90.6%であった。Q11、Q12 と共通する傾向であった。

Q15 「受講するための十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた」

評価の平均は 4.48 であり「5」評価が 63.5%、「4」の評価は 23.1%であった。しかしながら「3」「2」「1」評価を合わせると 13.0%あることから学生間、授業間の差があることも推察できる。

Q16 「教科書や配付資料、その他教材、黒板やパソコン等が有効に使われていた」

評価の平均は 4.53 であり「5」評価が 66.7%、「4」の評価は 20.6%で、概ね肯定的な評価が得られていると考えられる。結果はほぼ前期と共通するものであった。

Q17 「授業の進度は、適切であった」

評価の平均は 4.58 であり「5」評価が 69.5%、「4」の評価は 20.4%、合計で 89.9%あったことから、比較的多くの学生にとって適切な授業進行・展開が図られていたものと推察できる。結果はほぼ前期と共通するものであった。

Q18 「学んだという達成感が得られた」

評価の平均は 4.53 であり「5」評価が 67.1%、「4」の評価は 20.7%であった。比較的多数の学生が授業を通して学びの達成感や充実感を得ていた者と推察できる。

1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	9	.3	.3	.3
	2	21	.6	.6	.9
	3	283	8.2	8.3	9.2
	4	921	26.8	26.9	36.1
	5	2191	63.8	64.0	100.1
	合計	3425	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	.3		
合計		3434	100.0		

2. 授業を乱す行為をしない

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	18	.5	.5	.5
	2	33	1.0	1.0	1.5
	3	373	10.9	10.9	12.4
	4	937	27.3	27.3	39.7
	5	2065	60.1	60.3	100.0
	合計	3426	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.2		
合計		3434	100.0		

3. 発展的な学習や新しい知識への興味

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	23	.7	.7	.7
2	42	1.2	1.2	1.9
3	371	10.8	10.8	12.7
4	954	27.8	27.8	40.5
5	2038	59.3	59.5	100.0
合計	3428	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3434	100.0		

4. 積極的な参加

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	8	.2	.2	.2
2	52	1.5	1.5	1.7
3	471	13.7	13.7	15.4
4	919	26.8	26.8	42.2
5	1978	57.6	57.7	99.9
合計	3428	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3434	100.0		

5. 計画的な学習への取り組み

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	28	.8	.8	.8
2	95	2.8	2.8	3.6
3	614	17.9	17.9	21.5
4	972	28.3	28.4	49.9
5	1720	50.1	50.2	100.1
合計	3429	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	3434	100.0		

6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	45	1.3	1.3	1.3
2	90	2.6	2.6	3.9
3	596	17.4	17.4	21.3
4	1000	29.1	29.2	50.5
5	1698	49.4	49.5	100.0
合計	3429	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	3434	100.0		

7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	47	1.4	1.4	1.4
2	177	5.2	5.2	6.6
3	727	21.2	21.2	27.8
4	1015	29.6	29.6	57.4
5	1459	42.5	42.6	100.0
合計	3425	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	9	.3		
合計	3434	100.0		

8. 遅刻はない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	114	3.3	3.3	3.3
2	129	3.8	3.8	7.1
3	331	9.6	9.7	16.8
4	486	14.2	14.2	31.0
5	2364	68.8	69.0	100.0
合計	3424	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	10	.3		
合計	3434	100.0		

9. 欠席回数の把握

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	1560	45.4	45.5	45.5
2	835	24.3	24.4	69.9
合計	2395	69.7	69.9	
欠損値 システム欠損値	1039	30.3		
合計	3434	100.0		

10. 授業中の質問する機会や工夫

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	16	.5	.5	.5
2	54	1.6	1.6	2.1
3	363	10.6	10.6	12.7
4	813	23.7	23.7	36.4
5	2175	63.3	63.4	99.8
合計	3421	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	13	.4		
合計	3434	100.0		

11. 適切な授業の開始・終了時間

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	5	.1	.1	.1
2	38	1.1	1.1	1.2
3	236	6.9	6.9	8.1
4	716	20.9	20.9	29.0
5	2427	70.7	70.8	99.8
合計	3422	99.7	99.8	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3434	100.0		

12. メリハリのある授業の進め方

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	15	.4	.4	.4
2	69	2.0	2.0	2.4
3	291	8.5	8.5	10.9
4	673	19.6	19.6	30.5
5	2371	69.0	69.2	99.7
合計	3419	99.6	99.7	
欠損値 システム欠損値	15	.4		
合計	3434	100.0		

13. 理解や興味を引き出す工夫

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	20	.6	.6	.6
2	60	1.7	1.8	2.4
3	349	10.2	10.2	12.6
4	752	21.9	21.9	34.5
5	2238	65.2	65.3	99.8
合計	3419	99.6	99.7	
欠損値 システム欠損値	15	.4		
合計	3434	100.0		

14. 教員としての相応しい発言や態度

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	14	.4	.4	.4
2	48	1.4	1.4	1.8
3	248	7.2	7.2	9.0
4	618	18.0	18.0	27.0
5	2494	72.6	72.8	99.8
合計	3422	99.7	99.8	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3434	100.0		

15. 学習環境、受講生のマナーの維持

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	13	.4	.4	.4
2	60	1.7	1.8	2.2
3	376	10.9	11.0	13.2
4	794	23.1	23.2	36.4
5	2182	63.5	63.7	100.1
合計	3425	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	9	.3		
合計	3434	100.0		

16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用

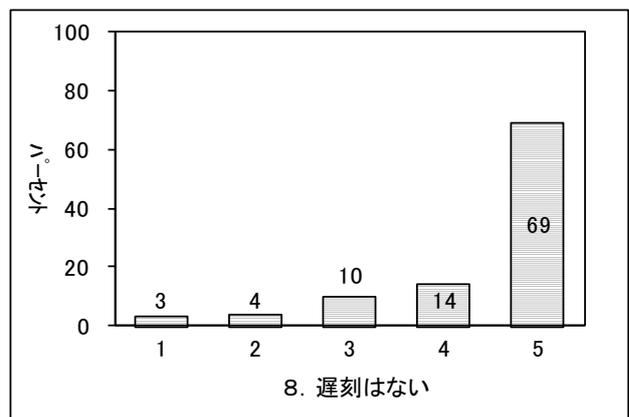
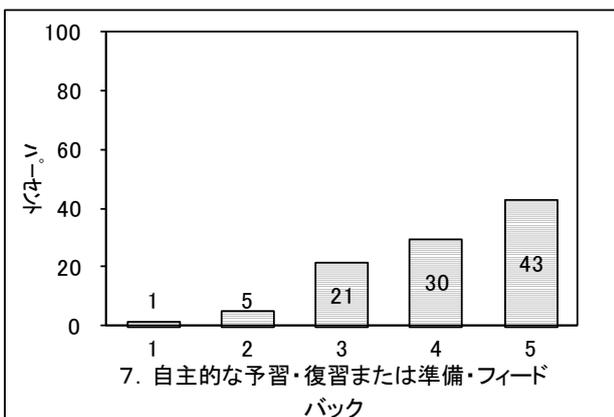
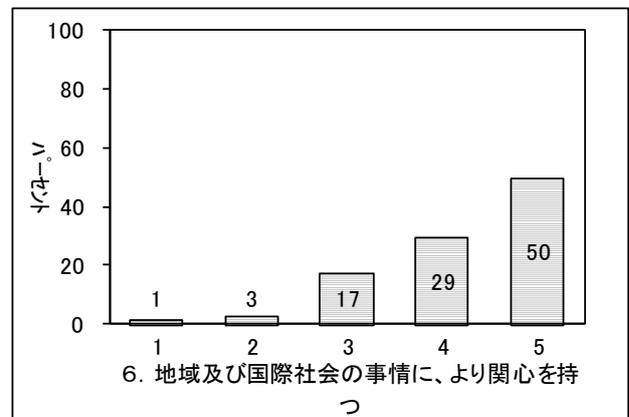
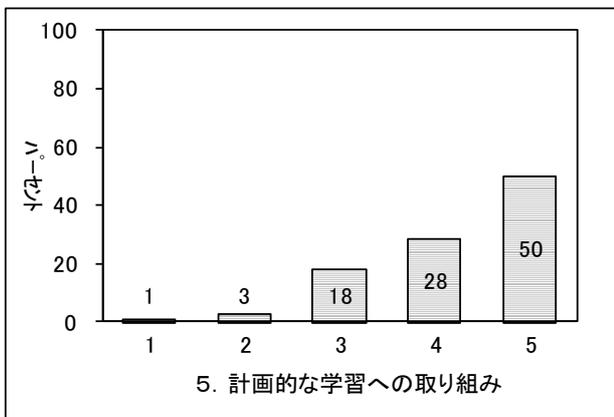
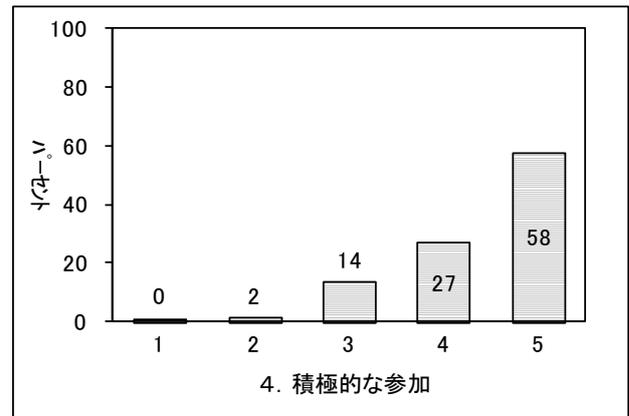
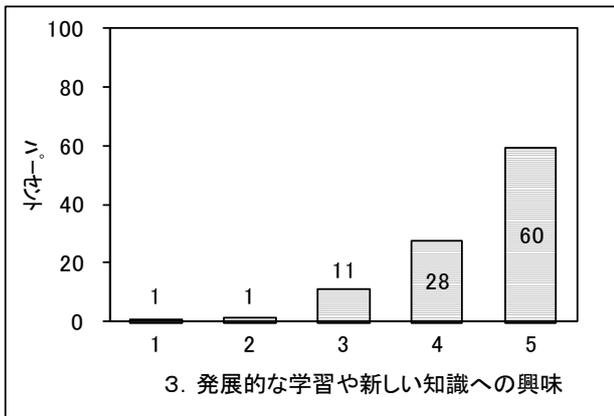
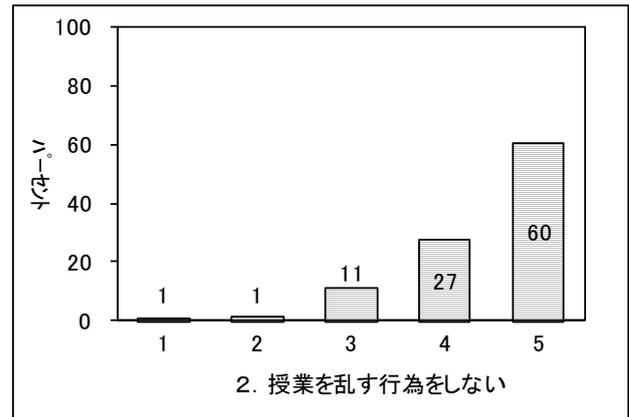
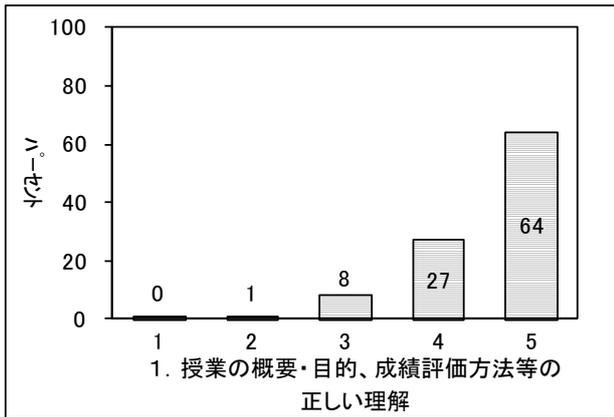
	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	11	.3	.3	.3
2	44	1.3	1.3	1.6
3	370	10.8	10.8	12.4
4	708	20.6	20.7	33.1
5	2290	66.7	66.8	99.9
合計	3423	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	11	.3		
合計	3434	100.0		

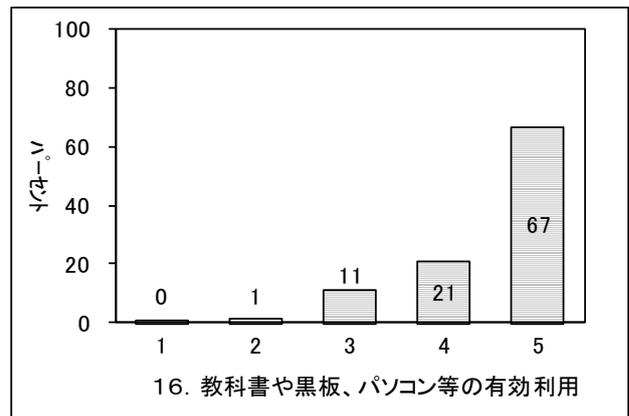
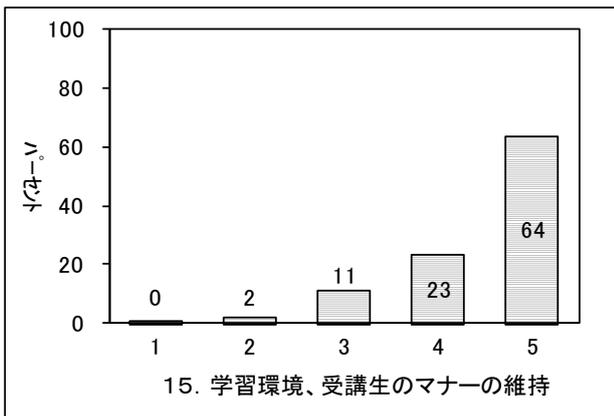
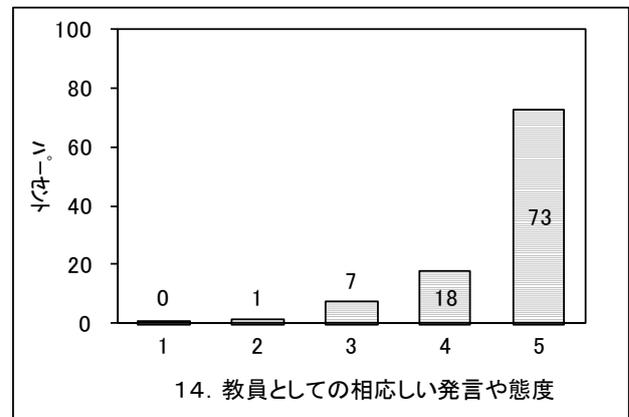
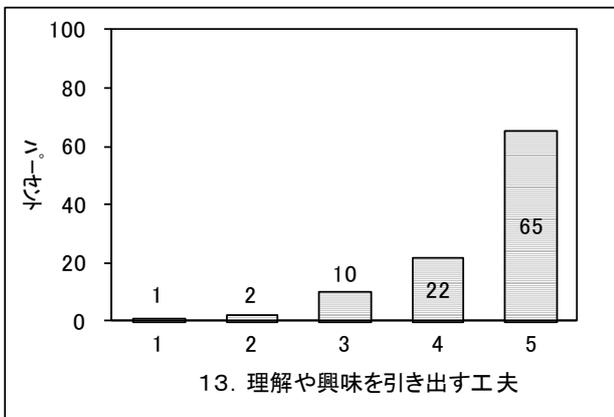
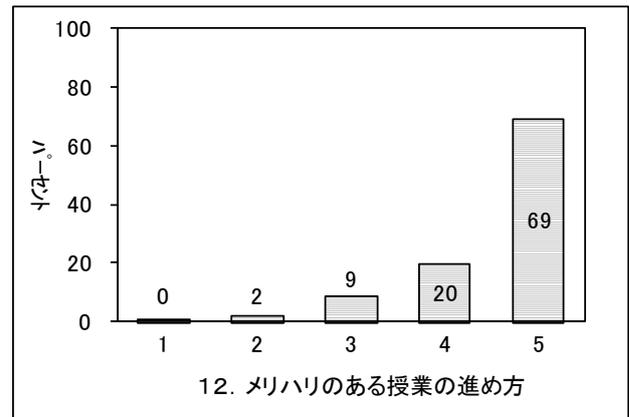
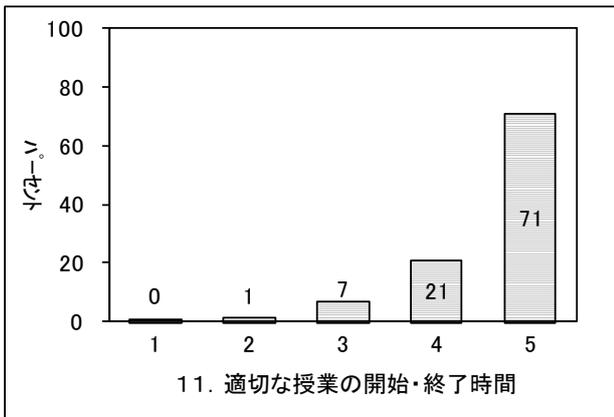
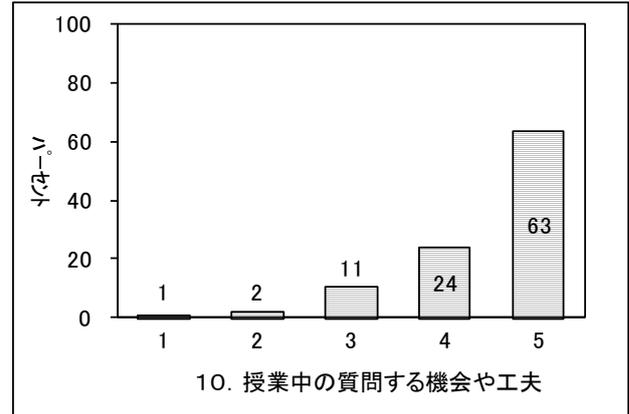
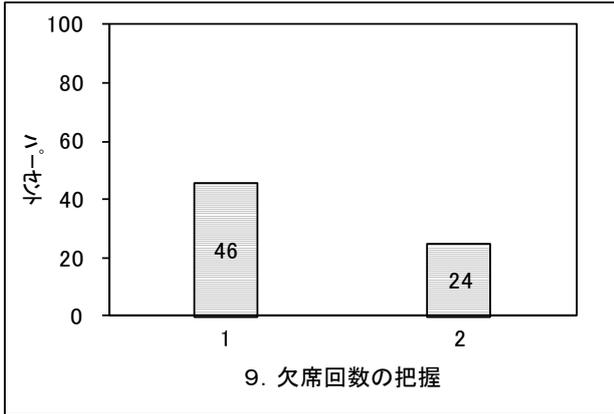
17. 適切な授業の進度

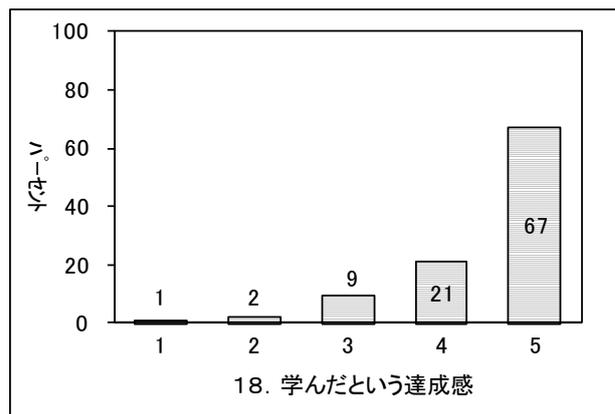
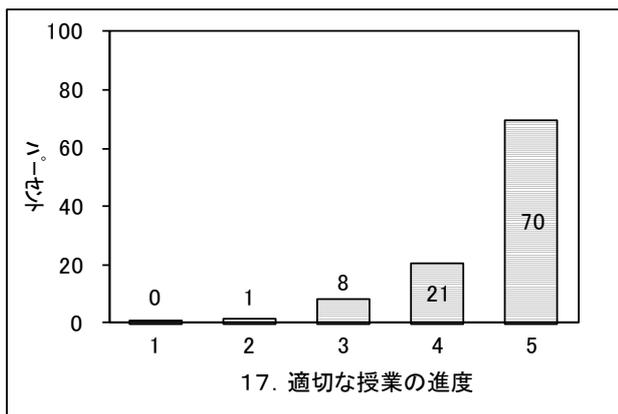
	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	8	.2	.2	.2
2	41	1.2	1.2	1.4
3	283	8.2	8.3	9.7
4	702	20.4	20.5	30.2
5	2388	69.5	69.7	99.9
合計	3422	99.7	99.8	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3434	100.0		

18. 学んだという達成感

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	24	.7	.7	.7
2	60	1.7	1.8	2.5
3	314	9.1	9.2	11.7
4	711	20.7	20.7	32.4
5	2304	67.1	67.2	99.6
合計	3413	99.4	99.6	
欠損値 システム欠損値	21	.6		
合計	3434	100.0		







2 全体の評定結果

五段階評価に対する質問 17 項目全てにおいて平均値が 4.00 を超え、学生は概ね自らの学習態度、および大学が提供する学習環境に対して肯定的に評価していると捉えて良いだろう。数値的には 17 項目中 16 項目において上昇が認められ、前期よりも後期の方が高い評価となっていた。

回答のばらつきを示す標準偏差の結果については、いくつかの質問において個人間また授業間で差があるものと思われた。授業間の差については第 2 章を参照されたい。

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度 の自己 評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	3425	2191	921	283	21	9	4.54	.695
	2. 授業を乱す行為をしない	3426	2065	937	373	33	18	4.46	.766
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	3428	2038	954	371	42	23	4.44	.786
	4. 積極的な参加	3428	1978	919	471	52	8	4.40	.797
	5. 計画的な学習への取り組み	3429	1720	972	614	95	28	4.24	.898
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	3429	1698	1000	596	90	45	4.23	.916
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	3425	1459	1015	727	177	47	4.07	.982
	8. 遅刻はない	3424	2364	486	331	129	114	4.42	1.031
	9. 欠席回数 of 把握	2395	-	-	-	835	1560	.97	.477
II 学習環境 の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	3421	2175	813	363	54	16	4.48	.783
	11. 適切な授業の開始・終了時間	3422	2427	716	236	38	5	4.61	.678
	12. メリハリのある授業の進め方	3419	2371	673	291	69	15	4.55	.769
	13. 理解や興味を引き出す工夫	3419	2238	752	349	60	20	4.50	.794
	14. 教員としての相応しい発言や態度	3422	2494	618	248	48	14	4.62	.718
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	3425	2182	794	376	60	13	4.48	.787
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	3423	2290	708	370	44	11	4.53	.762
	17. 適切な授業の進度	3422	2388	702	283	41	8	4.58	.713
	18. 学んだという達成感	3413	2304	711	314	60	24	4.53	.790

※問9は、1=「はい」の回答数、2=「いいえ」の回答数、平均値=欠席回数の平均値を示す。

3 学科ごとの評定結果

3.1 総合教育系の評定結果

全体的な傾向としては、全学科の平均と共通すると捉えることができるが、標準偏差の値は全学科平均よりも高い項目が多く、学生間、科目間の差があると推察できる。

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	755	493	190	60	5	7	4.53	.748
	2. 授業を乱す行為をしない	756	455	202	86	8	5	4.45	.786
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	756	446	209	78	15	8	4.42	.834
	4. 積極的な参加	756	425	191	120	16	4	4.35	.857
	5. 計画的な学習への取り組み	756	342	200	172	33	9	4.10	.976
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	756	343	211	157	30	15	4.11	.994
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	756	288	195	197	60	16	3.90	1.068
	8. 遅刻はない	754	529	89	79	32	25	4.41	1.052
	9. 欠席回数の把握	540	-	-	-	172	368	.86	.466
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	756	417	180	125	25	9	4.28	.936
	11. 適切な授業の開始・終了時間	756	532	155	55	12	2	4.59	.718
	12. メリハリのある授業の進め方	755	519	137	73	19	7	4.51	.840
	13. 理解や興味を引き出す工夫	754	502	140	80	21	11	4.46	.897
	14. 教員としての相応しい発言や態度	756	527	136	66	19	8	4.53	.838
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	756	459	169	105	17	6	4.40	.865
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	755	511	148	74	16	6	4.51	.818
	17. 適切な授業の進度	756	528	134	76	13	5	4.54	.795
	18. 学んだという達成感	754	496	148	73	20	17	4.44	.933

※問9は、1=「はい」の回答数、2=「いいえ」の回答数、平均値=欠席回数の平均値を示す。

3.2 英語科の評定結果

教員要因である項目 Q10～Q18 では、すべて 4.4 を超えており、英語科全体としては高く評価されているととらえることができる。平均は 4.51 で、前期の 4.37 より高い。学生要因である Q1～Q9 においても、「欠席回数の把握」以外は 4.0 を超えていて、学生がまずまず真面目に学んでいることがうかがえる。

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	867	563	208	90	6	0	4.53	.706
	2. 授業を乱す行為をしない	867	480	229	147	10	1	4.36	.808
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	867	467	257	128	13	2	4.35	.801
	4. 積極的な参加	867	462	237	148	20	0	4.32	.835
	5. 計画的な学習への取り組み	868	409	228	190	34	7	4.15	.948
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	868	433	223	172	30	10	4.20	.949
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	865	362	231	210	53	9	4.02	1.000
	8. 遅刻はない	867	459	164	145	62	37	4.09	1.166
	9. 欠席回数の把握	582	-	-	-	356	226	3.00	.488
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	863	545	206	93	16	3	4.48	.787
	11. 適切な授業の開始・終了時間	863	627	161	66	8	1	4.63	.676
	12. メリハリのある授業の進め方	860	593	153	89	22	3	4.52	.808
	13. 理解や興味を引き出す工夫	862	541	185	114	20	2	4.44	.824
	14. 教員としての相応しい発言や態度	863	616	151	79	15	2	4.58	.748
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	864	531	188	123	19	3	4.42	.838
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	864	588	159	110	6	1	4.54	.748
	17. 適切な授業の進度	861	589	180	73	17	2	4.55	.751
	18. 学んだという達成感	856	546	173	113	21	3	4.45	.837

※問9は、1=「はい」の回答数、2=「いいえ」の回答数、平均値=欠席回数の平均値を示す。

3.3 保育科の評定結果

前回同様、教員要因の平均値は高く、標準偏差も小さい。それは個々の教員が保育士・幼稚園教員養成に関する熱意をもって、教育に携わっていることの証左であろうと思われる。具体的に短期大学の二年間で何をすべきかという教育目標がはっきりしている事が背景にあるためであろう。ただし「シラバス参照」や「予習復習」の値が低いのは、学生が授業で出された課題をこなすのに手一杯となっている状況が垣間見え、それが自主的な学習への余裕のなさを反映しているようにもうかがえる。この課題は、学科特有の授業課題の多さに起因するものと思われるが、今後、教員間で課題提出に関する意見交換をし、学生の課題状況を把握する事で、今以上に丁寧な保育士・幼稚園教員養成の指導が出来るようになる。

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	1803	1135	523	133	10	2	4.54	.665
	2. 授業を乱す行為をしない	1803	1130	506	140	15	12	4.51	.732
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	1805	1125	488	165	14	13	4.49	.752
	4. 積極的な参加	1805	1091	491	203	16	4	4.47	.744
	5. 計画的な学習への取り組み	1805	969	544	252	28	12	4.35	.824
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	1805	922	566	267	30	20	4.30	.859
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	1804	809	589	320	64	22	4.16	.923
	8. 遅刻はない	1803	1376	233	107	35	52	4.58	.909
	9. 欠席回数の把握	1273	-	-	-	307	966	.56	.428
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	1802	1213	427	145	13	4	4.57	.690
	11. 適切な授業の開始・終了時間	1803	1268	400	115	18	2	4.62	.661
	12. メリハリのある授業の進め方	1804	1259	383	129	28	5	4.59	.716
	13. 理解や興味を引き出す工夫	1803	1195	427	155	19	7	4.54	.728
	14. 教員としての相応しい発言や態度	1803	1351	331	103	14	4	4.67	.639
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	1805	1192	437	148	24	4	4.55	.720
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	1804	1191	401	186	22	4	4.53	.745
	17. 適切な授業の進度	1805	1271	388	134	11	1	4.62	.655
	18. 学んだという達成感	1803	1262	390	128	19	4	4.60	.687

※問9は、1=「はい」の回答数、2=「いいえ」の回答数、平均値=欠席回数の平均値を示す。

4 自由記述による評価

2012年度の授業評価アンケートは、それまでの質問項目の変更に加え、自由記述部分の問い方についても、その方法と文言を修正した。これまでの問い方は、1) この授業の良い点、2) この授業に改善してほしい点、3) この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと、4) 学長へ（聞いてほしいこと）への回答を求めるものであったが、今年度より「改善のための提言：この授業を振り返り、学習環境（担当教員も含む）改善のための提言をしてください。」と変更され、新方式でのアンケートは今年度前期に続いて2回目の実施となった。

4.1 総合教育系の授業について

学生の回答を概観すると、これまで実施されてきた上記1)～4)への回答が渾然一体となったような記述が多く、実際には学習環境改善への提言は少なかった。

少数ながら改善のための提言としては、「人数が多すぎる」「休んでしまった」「おしゃべりが少し多かった気がしました」など、学習環境改善への提言と、自己反省的な記述が見られた。

総合教育系の全体的な傾向としては、以下のようなことが認められた。

- 1) 前期同様に、実技・演習系の授業においては、技能習得への達成感や満足感、授業の楽しさが多く記述されていた。
- 2) 授業の展開方法が参加・体験型であることで、学びを貴重な体験として捉える学生が多い。
- 3) 学生から評価が良くない記述としては、教員の言葉遣いや態度が悪い、授業の展開が早くて付いていけない、授業内容が分からない、などが認められた。中には、学生の記述をその通り解釈すると、非常に問題が認められる授業もある。

4.2 英語科の授業について

英語科の提供する科目については感謝と賞賛のコメントが並んでいるが、一人だけ「酒臭い」というコメントが見られ、気になるところである。

4.3 保育科の授業について

学科の授業は他短期大学でも同様であろうが、講義・演習・実習の三つの区分に分けられ、それぞれの担当教員が特質をふまえて教育を行っているが、毎年、学科特有の演習系授業に関しては、肯定的な意見が多く見受けられている。具体的な指導や実習における責任実習を見据えた指導を担当教員が心がけている故であろうと思われる。また、講義や実習に関する教員の言動や指導法については、概ね良好である。

おわりに

全体的には、学生要因の平均値がすべて 4.0 を超え、教員要因の平均値はほぼ 4.50 を超えているので、良い授業が提供され、学生が真面目に勉学にいそしんでいるとみてとれる。

自由記述には、おおむね、「楽しく勉強できた」「丁寧に教えてくれ、ためになった」など好意的なコメントが見受けられた。しかし、「もう一生かかわりたくないし、この大学には必要ないと思う」「頑張って調べたりしてもどなられてくずとか言われる」など、前期に引き続き、語調の強いコメントが並ぶ教員がいる。記述内容をよく検証し問題点を明確にし、改善に努める必要性がある。また、よりよい大学を目指し上で、FD委員会などで議論すべきである。

学生による授業評価について

調査期間：前期7月／後期1月

調査対象：全クラス

学生の皆さんへ

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはなく、「成績」に影響を及ぼすようなこともありません。また、プライバシー保護については十分留意しますので、率直かつ真摯な評価をお願いします。(学籍番号の記入欄は、学生が自分の意見に責任をもって記述してもらうために設けています。ただし、個人を特定するものではありません。)

沖縄キリスト教短期大学FD委員会委員長

沖縄キリスト教短期大学学長

この授業評価アンケートは、大きく3つの項目に分かれています。

「Ⅰ. 学習態度の自己評価」について

ここでは、学生の皆さんに、この授業で自分の学習態度はどのようなものであったかを自己評価していただきます。この項目の目的は、学生の皆さんが「自律学習者」(自分の学習を自分の立てた規律や計画に従って積極的に行う者)として、それぞれの授業にどう向き合ったかを振り返っていただくとともに、その自己評価を今後の学習に活かしていただくことです。

「Ⅱ. 学習環境の評価」について

学生の皆さんが授業を受ける際に、適切な学習環境が提供されていたかどうかをお聞きます。本短期大学と担当教員は皆さんからの評価を参考にし、より良い学習環境の提供に努めたいと思っています。

「Ⅲ. 改善のための提言」について

本短期大学と担当教員は、より良い学習環境の提供のため、改善するべき点があればそれを明らかにしたいと思っています。受講生としての立場から気付いたことを、自由に記述してください。

※記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

科目名		クラス名		性別	男	女
所属学科	1. 英語科	2. 保育科	3. 科目等履修生	学年	1年	2年
学籍番号	※差し支えなければ学籍番号を記入してください。					

(裏のページへ進んでください⇒)

沖縄キリスト教短期大学

< I 及びIIの評価方法 >

・設問1～8、10～18は、評価欄のあてはまる数字（1～5）に○をつけてください。

評価基準：5 とても良く当てはまる 4 当てはまる 3 どちらともいえない 2 あまり当てはまらない 1 全く当てはまらない

・設問9は、「はい」の場合、該当する数字を（ ）内に記入してください。

I. 学習態度の自己評価

	評 価 欄				
1. 初回のオリエンテーションを聞き、授業の概要や目的、成績評価の方法などについて正しく理解していた。	5	4	3	2	1
2. 私語や携帯電話の使用など、授業を乱す行為をしなかった。	5	4	3	2	1
3. この授業をきっかけに、発展的な学習や新しい知識に興味を湧いた。	5	4	3	2	1
4. この授業に、積極的に参加した。	5	4	3	2	1
5. 授業時間以外にも、授業の準備や課題を行うなど、計画的に学習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
6. この授業を通して、地域及び国際社会の事情に、より関心を持つようになった。	5	4	3	2	1
7. この授業の予習・復習または準備・フィードバックを自主的に行った。	5	4	3	2	1
8. この授業での遅刻はなかった。	5	4	3	2	1
9. この授業での欠席回数を把握している。	はい（ ）回				いいえ

II 学習環境の評価

	評 価 欄				
10. 授業中、分からないことや理解できなかったことを質問する機会や工夫があった。	5	4	3	2	1
11. 授業の開始・終了時間は適切であった。	5	4	3	2	1
12. 授業の進め方にメリハリ（声の大小、説明内容等）があった。	5	4	3	2	1
13. 理解や興味を引き出すよう工夫されていた。	5	4	3	2	1
14. 教員として相応しい発言や態度であった。	5	4	3	2	1
15. 受講するための十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた。	5	4	3	2	1
16. 教科書や配布資料、その他教材、黒板やパソコン等が有効に使われていた。	5	4	3	2	1
17. 授業の進度は、適切であった。	5	4	3	2	1
18. 学んだという達成感が得られた。	5	4	3	2	1

III 改善のための提言

この授業を振り返り、学習環境（担当教員も含む）の良かった点・改善点を提言してください。（自由記述）

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。